フォーチュンカード・マーケット（FCM）専用札 購入者向け実践ガイド

あなたもできる！ 三相占い

第II部「引く部 — 占いながら開く読みの表」完全収録ダイジェスト

著 ヒゲの占い師
『あなたもできる！三相占い』第3版より抜粋

はじめに — 卓に広げる前の「三つの心得」

第I部（第1章〜第5章）の核心

心得 一

使う札は、三種類

使う札は**吉（赤）・平（青）・凶（黄）が3枚ずつの計9枚**だけ。専用札のほか、**トランプ（吉＝A、平＝同じ数字札、凶＝同じ絵札を各3枚）や手書きの9枚でも代用可能**じゃ。

心得 二

凶は「選び取る課題」

場の3枚は混ぜた運が並べたもので、あなたに責はない。そこから掴んだ凶は「不運」ではなく**「まだ間に合う警告＝向き合うべき課題」**じゃ。この占いに悪い結果は存在せん。

心得 三

運の総量が卓上に見える

9枚の中身（吉3・平3・凶3）は決まっておる。場に吉が出払えば山の吉は減り、場に凶が出払えば外の山に凶は残らん。**「山は痩せる」**——運の配分と総量がそのまま見える占いじゃ。

○ 手順ダイジェスト（占うたびに、まずこの頁を開く）

支度：裏の同じ札9枚（吉3・平3・凶3）

1 問いを、一つに絞る
※「うまくいくか」「通るか」など未来の二択で来たら、そのまま混ぜず**「〇〇は、いま、どういう場にあるか」**と今の場の問いに寄せて口に出し、得心してから始める。

2 問いを心の中で三度唱えながら、9枚を混ぜる
※「もう少し混ぜたほうがよいか」と迷わんでよい。**三度唱え終わりが、混ぜ終わり**じゃ。

3 山を一度だけ割って重ね（カット）、卓に置いて、手を離す
※ひと呼吸置く。手が離れたここが、**あなたと「場」との境目**じゃ。

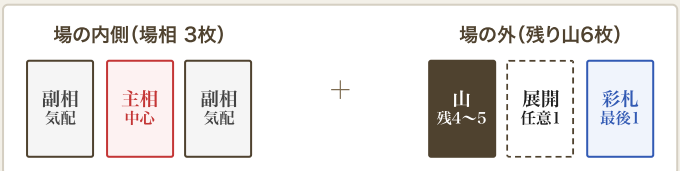
4 山の上から3枚を、伏せて並べる【場取り】
※**この3枚はあなたが選んだものではない**（混ぜと割りが並べた「場」の空気）。残った6枚は山のまま脇に寄せておく。

5 伏せた3枚から直感で1枚を選び、開く【主相（しゅそう）】
※この占いで**あなたの手が札を選ぶのは、あとにも先にもここだけ**じゃ。いま掴んでいる中心の運を表す。

6 残りの2枚を開く【副相（ふくそう）。3枚そろって場相（ばそう）】
※選ばれなかった2枚が「副相（中心運への支えか抵抗か）」、表になった3枚全体が「場相（場の質）」じゃ。

7 （任意）さらに知りたいことが一つ残っているなら、用途を口に出して宣言し、山の上から1枚引いて開く【展開札】
※用途は「近未来・助言・注意点・相手」の4つ。**開く前に必ず声に出して宣言する**こと。**1回の占いに1枚まで。**

8 山の上から最後に1枚引いて、開く【彩札（いろふだ）】
※彩札は吉凶では読まず**色（吉→赤、平→青、凶→黄）に変換**して読む。専用札は札の地色をそのまま読めばよい。**色は主相にだけ係る。**



◆ 重要：読む順は、めくる順と違う

人物を見る前にまず景色を見る。全体から中心へ、次の順で表を引く。

① 場相 → ② 主相 → ③ 副相 → （④ 展開札） → ⑤ 彩札

※展開札（手順7）を引かない卓：**副相に凶が出ているときの注意点札 ／ 病の先行き（治る・治らんの類）の問い。**

一 場相（ばそう）の表 — 全体の空気を読む

表になった3枚の組み合わせ（全10通り）

場相は、今この問いのまわりに生まれている「場（運の空気）」を表します。主相・副相の区別なく、開いた3枚の組み合わせ（順不同）は、次の10通りのどれかに必ず当たります。表の言葉を自分の問いに重ねて読みなさい。

場相の構成（3枚）	場の質（いま問いのまわりに漂っている運の空気）
吉 吉 吉	**完成された明るい場。**場そのものが強い
吉 吉 平	**明るい場。**追い風があり、調整の余地もある
吉 吉 凶	**明るさ優勢の場。**ただし油断禁物
吉 平 平	**穏やかに明るい場。**小さく進めると良い
吉 平 凶	**三相そろった割れた場。最も選択が重要**（三つの顔が同居し、何を主相に掴んだかが強く効く）
吉 凶 凶	**重い場に突破口がある**
平 平 平	**静かな場。**保留・整える日。無理に動かさない
平 平 凶	**やや慎重な場。**重さに寄りやすい
平 凶 凶	**重さ寄りの場。**防御・整理・回避
凶 凶 凶	**強い警告の場。**攻めより守り

【手つきの勘どころ：重い場が並んだとき】平凶凶や凶凶凶など重い場が開いたときは、読みに入る前に必ず**「この場は、あなたが並べたものではない。混ぜた運が並べたものじゃ。場のことであなたが負うものは何もない」**と先に置くこと。自分を責める道を最初にふさいでおくのじゃ。また、場に凶が出払っておるなら、外の山に残る凶は減っておる（凶凶凶なら山に凶は1枚もない）。

次へ → 二 主相の表（下段）

二 主相（しゅそう）の表 — 掴んだ中心運を読む

場の3枚からあなたが選んだ1枚（全3通り）

主相は、場相の3枚の中からあなた自身が直感で選んだ1枚。今、あなたが掴んでいる**中心運（今日の主題）**です。

主相	読み（いまあなたが掴んでいる中心の運・主題）
吉	**あなたが今掴んでいるのは追い風。**中心に進む力がある。**これを使うかどうかが今日の主題**
平	**あなたが今掴んでいるのは調整の運。**決着ではなく準備の位置にいる。**土台を作る日**
凶	**あなたが今掴んでいるのは警告。**ただし凶を掴んだことは、引いてしまった不運ではなく、**向き合うべき課題が明確になった**ということ

◆ 鉄則：主相の凶は「引いてしまった不運」ではなく「選び取った課題」と読みます。
警告とは「まだ間に合う」ということじゃ。手遅れのことを人は警告とは呼ばん。主相で凶が出たら、読みより先に**「あなたは、向き合うべき課題を掴んだ」**と伝えなさい。

次へ → 三 副相の表と合成則（3ページ目へ）

三 副相（ふくそう）の表と合成則 — まわりの気配を読む

選ばれなかった残り2枚（全6通り）＋主相との合成3原則

副相は、場相のうち選ばれなかった2枚。中心運に対して、**支えか、抵抗かの一軸**で読みます。
※注意：副相は未来・結果・助言としては読みません（「こっちを選んでいたらこうなった」「この先こうなる」と読まんこと）。

副相（2枚）	場の気配（中心運を取り巻く支え・抵抗）
吉 吉	**明るい場**。中心運は強く支えられている。安心して主相に集中できる
吉 平	**穏やかな支え**。中心運を助ける余地と、整えるべき余地が半々
吉 凶	**割れた場**。支えと抵抗が同居し、中心運の扱い方で場が上下に振れる（※合成則は凶がある側を採る）
平 平	**静かな場**。支えも抵抗も薄い。中心運が結果のほぼすべてを決める
平 凶	**やや重い場**。中心運の足元に保留された問題が沈んでいる
凶 凶	**重い場**。中心運は逆風に囲まれている。主相が吉でも小さく使うこと

■ 主相と副相の合成則（主相3 × 副相6 ＝ 18通りを暗記せず、次の3原則で読む）

① **副相に「吉」がある**（吉吉・吉平）　→ 主相の読みを「一段強気に」

② **副相に「凶」がある**（吉凶・平凶・凶凶）　→ 主相の読みに「条件を付ける」（「ただし〜なら」「〜する動きなら通る」）

③ **副相が「平平」**　→ 主相の読みを「そのまま、純度高く」

展開札を引くなら → 四 展開札の表（下段） ／ 引かないなら → 五 彩札の表（4ページ目）

四 展開札（てんかいふだ）の表【前半：近未来札・助言札】

場の外（残りの山）から来る1枚

場相・主相・副相は「場の内側」のもの。未来や動き方や相手のことは「場の外（山の中）」にあります。展開札は**「何を問うて引いたか」で同じ札の意味が変わります**。引く前に必ず次の2つの決めごとを守ってください。

決めごと①：開く前に用途を口に出して宣言する
開いた顔を見てから問いを選ぶと、人は都合のよい顔を選んでしまう。「近未来を見る」「助言を聞く」と声に出して宣言してから山の上の1枚をめくる（後出し・変更不可）。

決めごと②：展開札は、1回の占いに1枚まで
場に3枚並べば山は6枚。痩せた山から引く1枚は場の運の総量を背負って重い。2枚目を引けば重みが割れる。毎回引く札ではなく、問いが1つ残っているときだけ1枚引く。

① 近未来札（これから、どうなる？）

札	読み（流れの向き）
吉	**流れは開く方向**。今の場が平や凶でも、外から追い風が入ってくる
平	**急な変化はない**。今の場の質がしばらく続く。仕込みの期間
凶	**外から逆風が入る**。今が良くても油断せず、備えを先に

※読みのコツ：主相との落差で読む。主相が吉で近未来が凶なら「今の追い風は短い（乗るなら早めに）」。主相が凶で近未来が吉なら「課題の先に、出口が見えている」。
※病気の先行き（治る・治らない等）には引きません。

② 助言札（どう動けば、いい？）

札	読み（行動の指示）
吉	**攻めてよい**。前に出る、申し出る、始めることが正解
平	**動かないことが正解**。整える、待つ、現状維持に価値がある
凶	**引くことが正解**。やめる、断る、距離を取る勇気が問われる

※念押し：助言札の凶は悪報ではなく「**撤退や拒否という行動の指示**」、平は「**待つという決断**」。
※彩札との違い：助言札は「**進退の方針**」、彩札は「**主相の運が出る場所・手つき**」（合わせ読みは次頁下段を参照）。

四 展開札の表【後半：注意点札・相手札】

用途を宣言して山の上から1枚（1回の占いに1枚まで）

③ 注意点札（何に、気をつける？）

札	読み（警戒すべき罠）
吉	**好調そのものが罠。**慢心、油断、広げすぎに注意
平	**停滞の放置に注意。**「まだいいか」の先送りが問題を育てる
凶	**明確な危険がある。**契約、衝突、損失など具体的な警戒を

◆ **重要規則：副相にすでに「凶」が見えているときは、注意点札を引かんこと。**気をつけるべきものはもう卓上に出ておる。札を足さず、その副相の凶を深く読みなさい。

④ 相手札（あの人は、どういう状態？）

札	読み（相手のいまの状態）
吉	**相手は前向き・余裕がある。**働きかけが通りやすい
平	**相手は迷い・様子見・保留の中にいる。**急かすと閉じる
凶	**相手は警戒・不調・余裕がない。**今は相手の問題で、あなたのせいではない

◆ **重要規則：相手札が映すのは「相手の状態」まで。**気持ちの中身（好意の有無など）は読みません。働きかけが通りやすい時期か、そうでないかまでじゃ。

五 彩札（いろふだ）の表 — 最後の一枚は「色」に化ける

色への変換（3通り）＋ 主相×色の中心結果（全9通り）

彩札は、残りの山の上から**常に最後に1枚引き、色に変換**します（展開札を引いた場合はそのあとの山から引く）。専用札をお使いの方は、**開いた札の地色（赤・青・黄）をそのまま読めます。**彩札で凶を引いても警告ではなく「黄（見極めの領域）」というただの色に化けておる。

引いた札	変換する色	運の出る場所（主相の運がいま暮らしのどの領域に現れているか）
吉	赤（あか）	**行動・情熱・勝負・前進** の領域
平	青（あお）	**感情・人間関係・調整・受容** の領域
凶	黄（き）	**思考・情報・注意・見極め** の領域

◆ **鉄則：彩札の色は、主相（中心の1枚）にだけ係ります**（副相や展開札には係りません）。主相3通り×色3通り＝**次の9通りが今回の占いの「中心結果」**です。

中心結果（主相×色）	中心結果の読み（これで一回の占いが締まります）
吉 × 赤 吉赤	**動けば開ける。**行動・勝負に追い風がある
吉 × 青 吉青	**人間関係・感情・縁の中に吉が出る**
吉 × 黄 吉黄	**判断・情報整理・見極めによって吉を掴む**（勢いで乗るのではなく見極めて掴む追い風）
平 × 赤 平赤	**行動は調整しながら。**焦らず小さく動く
平 × 青 平青	**関係性は様子見。**受け止める姿勢が大事
平 × 黄 平黄	**情報を集める段階。**まだ結論を急がない
凶 × 赤 凶赤	**焦って動くと危ない。**衝動的な行動に注意
凶 × 青 凶青	**感情・対人面に注意。**距離感を誤りやすい
凶 × 黄 凶黄	**考えすぎ、誤判断、情報不足に注意**（※体の相談で凶黄が出たら必ず受診を勧める）

【実践の勘どころ：展開札の「助言札」と「彩札」が重なったときの合わせ読み（第6章より）】

● **役割の違い：助言札は「進退の方針（攻める／待つ／引く）」**を示し、**彩札は「主相の運が出る領域・手つき（赤＝行動／青＝対人／黄＝見極め）」**を着地させる。彩札の色は常に主相にだけ係り、互いに矛盾しない。

● **実例① 主相【吉】＋助言【平（動くな）】＋彩札【黄】＝中心結果「吉黄」**：誘いは本物の追い風（吉）じゃが、いまは飛びつかず待つ決断（助言：平）。待っている間に条件を紙に書いて比べる（吉黄＝見極めて吉を掴む）と読む。

● **実例② 主相【凶】＋助言【吉（前に出よ）】＋彩札【青】＝中心結果「凶青」**：避けてきた課題（凶）に自分から踏み込め（助言：吉）。ただし課題は距離感（凶青）にあるから、詰め寄らず静かに申し出よと締める。

ここで一回の占いが締まります（完）。テーマの言葉に着地させるなら → 六 テーマ別・彩の変換早見表（5ページ目へ）

六 テーマ別・彩（いろ）の変換早見表 — 言葉に着地させる

三色（赤・青・黄）× 三テーマ（仕事・恋愛・健康）

色（運の出る場所）を、相談テーマの土地の言葉に着地させる早見表です。**中心結果の読みはそのままに、出る場所の言葉だけをテーマの言葉に置き換えます**（例：健康の卓で「平黄」なら、結論を急がず「情報・検査・生活習慣の見直し」を集める段階と着地させる）。

【仕事】の卓の着地	
赤	営業・挑戦・実行
青	職場の人間関係・チーム
黄	企画・判断・情報

【恋愛】の卓の着地	
赤	告白・デート・行動
青	気持ちの通い合い・距離感
黄	相手を見極める・状況を読む

【健康・体】の卓の着地	
赤	運動・活動量
青	休息・心のケア・人に頼る
黄	情報・検査・生活習慣の見直し

実践の勘どころ①：問いの尻を聞けば、展開札は決まる

第VII章「三つの相談ごと」より

どの展開札を引くか迷ったら、札ではなく問いに戻りなさい。**「どうなる」なら近未来、「どうすれば」なら助言、「何に気をつければ」なら注意点、「あの人は」なら相手札**じゃ。

テーマ	よく来る相談ごとの問い	引く展開札と受け方の規則
仕事	「転職した方がいい？」「この誘いにどう向き合う？」	**助言札**（どう動けばよいか）
仕事 / 恋愛	「この企画はうまくいく？」「この恋はどうなる？」	**近未来札**（※まず「いまどういう場か」に寄せて場を読んだ後の**二段目**で引く）
仕事 / 恋愛	「上司（取引先）はどう思っている？」「あの人の気持ちは？」	**相手札**（※映すのは相手の状態・余裕の有無まで）
恋愛	「進むべき？ 別れるべき？」	**助言札**（札が示すのは方向まで。決めるのは本人）
健康	「生活で何に気をつければいい？」	**注意点札**（※副相に凶が出ていない卓のみ引く）
健康	「体調はこれから良くなる？」「これ、治りますか？」	**引かない**（病の先行きはお医者様の領域。言い換えても引かん）

実践の勘どころ②：三つの相談ごとの「越えてはならん一線」

自分を占うときも、人を占うときも守るべき作法

【仕事の卓の一線】
進退の結論を、代わりに出さん。
助言札の凶は「引くことが正解」と読むが、それを「辞めなさい」に変えるのは越権じゃ。方向は札が示す。決断は本人が自分の名前で下す。

【恋の卓の一線】
相手の気持ちを、断定せん。
相手札に凶が出ても「脈なし」とは言わん。「いまは相手に余裕がない（相手の事情であなたのせいではない）」と**時期の話**に着地させる。

【体の卓の三本の一線】
①**診断せん**（体との付き合い方まで）
②**「治りますか」には展開札を引かん**
③**「凶黄」が出たら、必ず「一度、診てもらいなさい（受診勧奨）」で締める。**

◆ どんな場が並んでも、掴むのは、あなたじゃ。

札は9枚。覚えることは、三つだけ。迷うたびに、朝の始まりに、何度でも卓に広げなさい。
※実際の相談者10人の鑑定ドキュメント（第4章・第6章）を含む書籍全文は『あなたもできる！三相占い』（著：ヒゲの占い師）にてお読みいただけます。公式サイト・Web体験は右のQRコードより。

公式サイト・Web体験
ブース【C-57】
X: @sansouuranai